

なごみ憲法

理 念

1 なごみ(ゆとりと安らぎ)のある暮らしから、認知症の進行を和らげる支援をします

認知症になっても人間としての存在価値が認められたとき、初めて心のゆとりと安らぎが生まれます。その観点に立った支援を心がけます。

2 入居者の気持ちを第一義とし、それぞれの生き立ちを尊重しながら人間としての尊厳ある生き方を支援をします

職員は常に①入居者から何かを学ぼう。②ホームは自分を磨く道場である。

③入居者の思いを絶えず推し量る姿勢を失わない。④自分の都合を優先させない。

これらを実践することによって自ずと入居者本意の支援につながっていきます。

経営方針を展開するために・・・私たち職員は

1 決して職員主導の行動を取りません。入居者がいてこそ職員が存在します。歌舞伎の黒子の役目が私たちです。

2 高齢になると思いをうまく表現できないことがあります。心に年齢の違いはありません。入居者の思いをくみ取ることが職員の役目です。

また「速さ」よりも「中味」を心がけます。「速さ」は、入居者本位から職員本位になりがちです。

「速さ」に重点を置いたケアは肝心の「中身」が置き去りになります。

常に目の前の入居者が果たしてどう感じているか？という視点にたったお世話に当たります。

① 可能な限り一対一でふれあうことに心がけます。

② 外出の機会を多く設け、四季折々の自然や近隣の人とのふれあいを深めます。

3 ホームが円滑に運営されるかどうかの鍵は家族様が握っています。お会いしたときは 心を込めておもてなしをします。

4 普段の挨拶や行事を通じた交流によってホームを理解していただけるよう努めます。それが大

きな支援の輪に繋がっていきます。

- ① 隣接の方々との交流を図ります。
- ② 地域の方々のボランティアを積極的に受け入れ交流を図ります。
- ③ 地域の行事に積極的に参加します。

5 挨拶は自分の心を開き相手の存在を認め、相手に好意的に関わろうとすることの表現です。

すべての行動は挨拶から始まります。声をかけられたらしっかり相手に顔を向けて言葉を返す「キャッチボール型」の挨拶を徹底します。明るい声が行き交う空間は、入居者の気持ちや表情まで良くなります。挨拶はチームプレイの「命」です。

6 職員は、入居者が安全に過ごせるよう常に気配りしなければなりません。

漫然とした行動ではなく、常に先を読んだ行動に心がけることが事故防止に繋がります。

7 個人情報の保護が重要視される時代です。軽率に個人情報を周囲に漏らすようなことは慎みます。

- ① 個人情報の施設外持ち出しはしません。
- ② 個人情報が記載された裏紙は使用しません。
- ③ 個人情報書類の裁断処分を徹底します。

8 仕事は自分一人の力では成し遂げることは出来ません。このことに自分自身が気がつくこと。

その気持ちにたどり着いたときに初めて、職員同士が尊重し合い、協力し合う気持ちが生まれてきます。

その気持ちを持ちながら働くことによって、周囲に良い影響を与えます。

働くことの喜びは、傍が楽になり「ありがとう」という感謝の言葉が返ってくる瞬間です。

”あなたからのありがとう”によって、私たちはまた働く意欲を持ちます。

私たちは、個々の責任感と役割意識を自覚して”チームが生きる”働きを心がけます。

そこから自然にチームワークが深まっていきます。

第3条 基本姿勢

1—あなたからのありがとうにありがとう— をモットーに

オ : おはようございます
ア : ありがとうございます
シ : 失礼します
ス : すみません

を徹底し、明るい対応とマナーに心がけます。

2 ゆとりある心で！

処理しなければならない業務と入居者の安全確保の狭間で、職員の気持ちがイライラしていると入居者は、その気持ちを敏感に読みとります。入居者は職員の心の鏡でもあります。

業務の優先順位を決めて、「今日は仕事をあきらめてAさんとひなたぼっこだ。おしゃべりしましょう。」この切り替えが入居者の安心感を生み出します。

3 いつも笑顔で！

あなたはお年寄りにいつも笑顔で接することが出来ますか？「大好き！」と抱きしめることが出来ますか？好きだからこそ「もっと良い方法はないだろうか。」と考えることが出来、創意工夫が沢山生まれてくるのです。「うるさい」「汚い」「頑固」と感じる人は、ホームで働くことは出来ません。

4 職場では他のことは考えない

職場での業務は、第一に安全であること。入居者の命を守ることです。些細な不注意が大きな事故を招きます。職場の玄関をくぐったらホームのことだけを考えるようにしてください。

玄関を出たらホームのことを引きずらない。`頭と心の切り替え`が長く仕事を続けられる秘訣です。

5 入居者第一

ホールでは職員同士で業務や入居者に関係ない私語を慎みましょう。

職員だけ盛り上がりたり大声を発したりしないこと。

気持ちが入居者から離れたたり、背を向けている間に事故が生じます。

6 主役は入居者と家族

「あなたのためだから。」と押しつけることはやめてください。実は、あなたのためではなく自分の都合であつたりします。入居者は何を望んでいるかを見つけてください。

入居者がより良い状態に至る手助けをするのが職員の役目です。

「〇〇しなさい。」と命令しないこと。「〇〇してあげるから。」と了解を得ないで勝手に所有物にさわったり捨てたり片づけたりしないこと。「この方がいいわ。」と入居者の意思を無視して職員の考えを押しついたりしないこと。

7 秘密保持

誰でも他人に知られたくない私生活上のことがあります。特に、排泄、入浴、金銭に関する事など。

職員はこの秘密に触れないと仕事が出来ないのですが、知り得たことは職場外では絶対漏らさないでください。

秘密を守ることは信頼関係の基本です。日頃から口の軽い人は、普段の生活の中でも信頼されないことになります。

8 最善の援助方法を！

最良の方法というものはなかなか見つかりませんが、最良でなくてもいい・・今よりも少しでも良い方法はないか・・と常に考え、工夫する気持ちが大切です。

9 してはいけないことを遵守する

職員として、してはいけないことが沢山あります。入居者の心身を傷つけること、命令口調であつたり友達口調だつたりすること、口の中にまだ食べ物が入っているのに次々と食べさせること、車いすのブレーキをかけずに場所を離れること、プライバシーを他人に漏らすこと耳が遠い人に後ろから話しかけたり、離れたところから大声で呼ぶこと等介護者としてしてはいけないことの基本を頭に刻み込みましょう。

10 信頼を得るために！

まず挨拶をしましょう。あまり大きな声ではなく、側に行き、ゆっくりとはっきりした声で話しかけます。

その際、今までと違うところはないか、顔色、表情、姿勢、話し方などの状態を観察します。

車いすの方や、ベッドに横になっている方、テーブルに座っている方が多いので、会話は視線の高さを相手の方と同じ高さにします。会話は、その方が一番わかる言葉を探しましょう。

名前を呼ぶ場合は、「おじいちゃん」「おばあちゃん」ではなく、呼んで欲しい呼び名がありますからその名前を大切にします。

11 聞き上手になる

心を空っぽにして聞くこと。なみなみと水の入ったコップに水を注ぐことは出来ません。入居者に対して先入観を持たないで話を聞きます。入居者は話を聞いているときよりも、話をしているときの方がいきいきして満足します。話し方のペースに合わせて、うなずいたり合づちを打つことで自分の気持ちを整理でき、悩みを解決することが出来、安心感へつながります。

入居者の気持ちを肯定したり否定するのではなく、あるがままに受け止め、決して職員の価値判断で善し悪しを決めずにあるがままを認める・・・職員の資質が問われることにもなりません。

12 話し上手になる

「顔と手を洗ってから浴槽に入りましょう。」ではなく「顔を洗いましょう。」「手は洗いましたか。」というように一度に沢山のことを伝えなくて、ひとつずつ伝えます。

又、忙しいときほど相手の立場に立つのが難しいので、話しかける前に深呼吸をして、ゆっくり落ち着いた気持ちで会話をするよう心がけましょう。

13 身だしなみ・・・プロとしてのかっこよさが大切

常に業務に支障がないことに心がけましょう。

名札の着用。アクセサリ（指輪、ネックレス、イヤリングなど）は出来るだけ身につけないようにします。

着けるときは、入居者にけがをさせるおそれはないか、引っ張られても大丈夫かを考えましょう。

スリッパやサンダルは緊急時に不安定なので使用は不適切です。

歩く時、音がしないものを選びます。

ユニフォームは胸元のボタンを閉めます。

長い髪はまとめるようにし、相手にかからないように。

化粧は派手すぎず清潔感があること。

爪はのばしすぎず派手すぎないこと。

歩き方に気をつけましょう。

14 ことばの大切さ

人間は感情の動物です。相手が聞いてくれなければ話したことになりません。

〈感じの良い話し方〉

否定的、暗い話し方をしない。相手の自尊心を尊重し、明るい表現に努める。

相手が話しやすい距離を考え、近づいて聞く雰囲気を考える。

幼児語、専門用語、流行語、外国語など失礼にならないよう、又相手を困惑させない話し方をする。

〈説明の条件〉

説明することが十分理解されているかどうかを判断すること。

言葉を知っていることと、その内容を理解しているかどうかは別です。相手の反応、表情、態度でそのことを察知するように努めます。

15 会議

登山をする場合、いろいろな登り口があります。それと同じようにいつも同じ方向から見るのではなく別の方向から見れば違う物が見えてくるものです。

会議は、様々な方向から検討し、より良い援助を提供するためのものです。

会議では、発言者の意見を良く聞き、又、自分の考えをはっきり伝えることが効果的な会議となります。

会議の結果を実行してみて、どうしても変更が必要だと考えたらもう一度会議を開き皆で検討します。

「会議の結果は結果、自分は自分のやり方で」という考えは入居者（利用者）を困らせるだけです。

職員は同じ考えで、同じような援助を提供することが大切です。